

研 修 機 関	介護老人保健施設 福久ケアセンター
研 修 期 間	平成19年10月9日 ～ 11月 8日
所 属 ・ 氏 名	金沢市立栗崎小学校 長丸 茂人

## I 研修目的

- 1 介護老人保健施設での業務を体験し、職員の方々や入所・通所の方々など、多くの人と関わり合う中で、視野を広げ、人間性や社会性を磨き、教師としての資質の向上を図る。
- 2 老人介護を通じ、施設の運営状況を知ることから、介護施設・介護士等の重要性と利用者の方々が安心して過ごせるように努力している企業としての理念や組織体制、その具体的方策を学ぶ。
- 3 高齢者福祉についての見識を深めていくことから、今後の教育活動全般や授業づくりに生かしていく。

## II 研修内容

- 1 デイフロア一棟での研修
  - ・利用者の方々とのコミュニケーション ・メディカルチェック ・整容作業
  - ・食事やおやつの準備、後片付け ・食事介助 ・シーツ交換 ・利用者の方々の送迎
- 2 一般棟での研修
  - ・入所の方々とのコミュニケーション ・シーツ交換 ・環境整備 ・外出支援
- 3 認知症棟での研修
  - ・入所の方々とのコミュニケーション ・シーツ交換 ・整容作業 ・入浴介助
- 4 グループホーム「ふくふく」での研修
  - ・入所の方々とのコミュニケーション ・整容作業
- 5 各種催しものの準備・運営の手伝い
  - ・喫茶 ・凶書の日 ・誕生会 ・絵手紙の日 ・大正琴 ・合唱 ・押し花 ・大運動会
  - ・ミニ映画 ・民謡の会 ・水墨画 ・書道 ・クイズ大会 ・手芸 ・動物との触れ合い
  - ・囲碁 ・音楽療法 ・
- 6 各担当チーフによる講義
  - ・オリエンテーション、施設見学 ・介護老人保健施設について ・認知症について
  - ・訪問介護サービスについて ・居宅事業について ・包括事業について ・介助実技研修
  - ・老健におけるリハビリテーションについて ・苦情対応、身体拘束、感染症対策について

## III 研修成果

### 1 基本理念に基づいた各種事業・業務の推進

福久ケアセンターが所属する福久会の基本理念は、「利用者中心のケア」、「地域に密着した在宅支援事業の推進」、「資質の向上と上質のサービスの提供」の3つである。この1ヶ月間、いろいろな体験をしていく中で、その理念に根ざした事業の推進を、組織としてしっかり行っていることを何度も感じる事ができた。これは、学校現場と同じく、学校教育目標実現のために、各学年組織や各委員会組織が、学校長を中心として組織一丸となって教育を推進する立場と似ており、各分野での職員の方々がその基本理念の下で、プロとしての働きをされていたことに感心し、その姿勢に学ぶべきことが多かった。

## 2 職員の方々のきめ細やかな対応

今回の研修では、デイフロアー、一般棟、認知症棟、グループホーム「ふくふく」の各棟にて研修を行ったわけだが、各棟において、すべての職員の方が、利用者さん一人一人のことをしっかり理解し、情報を共有しながら、それぞれの利用者に合った素早い対応をされていた。その対応には、笑顔を絶やさずに、コミュニケーションをしっかりと図っていくことで、利用者の方々との信頼関係も築けていることが感じられた。また、一人一人の素早い対応によって、職員間の連携もしっかり図られ、お互いにあうんの呼吸で補い合うチームワークも見られた。この連携には大変見習うべきことが多く、学校における職員間の協力体制のあり方の参考になった。

## 3 職員の方々や利用者の方々とのコミュニケーション

今回の研修で、たくさんの方々と接する機会があった。はじめは、業務の内容がよくわからず、いろいろなことを職員の方々に聞く機会があった。その中で、業務内容に関わること以外に、それぞれの方の介護や仕事に対する真摯な考えを聞いたり、姿勢を見たりすることができ、学校以外の企業の方々と話す機会を持つことにより、新しい見方や自分とは違う見方を知ることができた。

また、利用者であるたくさんのお年寄りの方々との触れ合いの中で、人と話すことの楽しさや難しさ、自分の殻を破ることの難しさ、にこやかに接することの大切さが実感できた。体の不自由な方、認知症の方、介助が必要な方、お話好きの方、気むずかしい方等、一人一人みんな違う方々のどんな人にも、相手の立場に立って接していくことが、まず第一で、その姿勢を持ち続けていくことが、互いの信頼関係に結びつき、自分自身もおおらかな気持ちなり、表情豊かに働けるということが体験できた。また、利用者の方々の素直な笑顔や喜ぶ姿にもたくさん共感できた。

お年寄りと子どもとの違いはあるものの、学校においても、子ども達を目線に立ち、共に学んでいくことが大切であることがあらためて実感できた。

## 4 介護事業に関する様々な講義から

今回の研修において、石原サービスマネジメント部部長さんをはじめ、様々な部署のチーフの方々から、それぞれの介護事業の内容についての講義や実技をしていただいた。日々の業務の基となる理念をはじめとして、施設の役割について、介護認定を受けてからの具体的な介護実施までのしくみ、認知症について、老健におけるリハビリテーションの考え方、苦情対応や感染症予防に対しての組織としての取り組み等、丁寧に話をしていただいた。今日的な介護の実情や課題はもちろんのこと、組織としてどう対応し、問題点をどう解決していくかなどマネジメント的なこともお話していただけて、大変参考となった。ここでも、プロ意識を持って、一人一人の職員の方々の資質の向上を図り、連携して業務を推進していくことで、福久ケアセンターという施設そのものの向上、いわば価値を高めていこうとする姿勢に感銘を受けた。

## IV 今後の課題

わずか1ヶ月の研修期間であり、高齢者介護の一端しか学べなかったが、職員の方々の情熱と利用者の方々との温かい触れ合いの中で、学校現場では、体験できない貴重な時を過ごすことができ、研修目的がほぼ達成できたのではないかと感じる。ケアセンターでは、「高齢者の方々」を、学校では「子ども達」というように、同じ「人」と関わる職場において、共通する点がたくさんあった。この経験から、これまで培ってきた教師としての姿勢をもう一度見直すよい機会となった。そして、今後は以下の点を課題として、取り組んでいきたい。

### 1 学んだことを教材化する

今回の研修で学んだ介護現場での職員の方々の前向きな姿勢や悩み、利用者の心情、認知症の実態、介護のしくみ等から、子ども達には、老いることはごく当然のことであり、手助けが必要な方々に対しては、優しい気持ちを持ってまわりのみんなで、自然に心から接することができるような心情を育てるための教材化を図っていききたい。総合学習における福祉領域のカリキュラムの編成や道徳における福祉の教材づくりからその実現を図っていききたい。

### 2 子ども達に接する姿勢を再考する

利用者の方々に対するケアセンター職員のきめ細かな素早い瞬時の対応を見習い、子ども達一人一人の心情をしっかりと察して、その子の目線に立ったその子に合った対応ができるよう心がけていききたいとあらためて感じた。「その人らしい生活を送らせたい」という石原部長さんの言葉が印象的で、その言葉の中に、誰が主体となるのかの本質があるような気がした。

また、たくさんの高齢者の方々との触れ合いの中で、人生の先輩としての尊敬すべき行動や謙虚な姿勢、優しい気遣いをしてもらい心温まる毎日を過ごすことができた。子ども達と共に過ごす学校生活においても、クラス全員と心温まる時が過ごせるような楽しい学校生活を生み出すように心がけていききたい。

### 3 常に向上する姿勢を持つように

理念のひとつ「利用者中心のケア」と謳っているように、利用者の方々が日常生活に復帰できるように、いろいろな角度からその方に合った生活リハビリを行っている。その生活リハビリの内容そのものに対しても、利用者の方々にとってよりよいものになるよう努力されている姿勢に感心させられた。そのための情報の共有化や職員の方々一人一人の資質の向上を組織としてしっかり取り組んでいる点は参考になり、学校現場にも生かせるべきところは参考にして取り入れていききたい。

最後になりましたが、お忙しい中、この1ヶ月研修を受け入れていただき、丁寧に温かく指導して下さいました福久ケアセンターの皆様方、本当にありがとうございました。また、貴重な研修の機会を与えて下さった石川県教育委員会をはじめ金沢市教育委員会、そして温かくこの研修に送り出してくれた校長先生、職場の皆様に感謝いたします。